

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2020年1月）

目 次

内 政

- ◆ジャーナリスト殺害事件裁判の本審開始 2
- ◆次期首相候補に関する世論調査結果 2
- ◆政党支持率調査結果 3
- ◆裁判官の職務停止及び裁判官に対する家宅捜索 3

外 政

- ◆チャプトヴァー大統領のポーランド及びイスラエル訪問 4

社 会

- ◆民主主義に関する世論調査結果 4
- ◆スロバキアにおける宿泊客数の増加 5

経 済

- ◆2019年の自動車生産実績等 5
- ◆2019年の物価上昇率 5
- ◆2019年の平均賃金 6
- ◆外国人労働者数の増加 6

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆ジャーナリスト殺害事件裁判の本審開始（14, 15, 23日付スメ紙）

13日、ペジノク市にある特別刑事裁判所において、ジャーナリスト・クツィアク氏及び婚約者クシュニーロヴァー氏殺害事件の本審が始まり、殺人依頼等で起訴されている実業家コチネル氏及びジュジョヴァー氏と、殺人罪等で起訴されているマルチェク氏（元軍人）及びサボー氏（元警察官）の4名が出廷した。右4名は、懲役25年あるいは終身刑の判決が言い渡される可能性がある。

13日、殺人罪で起訴されているマルチェク氏は、傍聴席の遺族に謝罪した後に、ジャーナリスト及び婚約者を射殺したことを認め、また、コチネル氏の殺人への関与を証言した。他方で、コチネル氏、ジュジョヴァー氏及びサボー氏は容疑を否認している。

14日の公判では、殺人依頼者と実行犯を仲介した疑いで逮捕されたアンドルシュコー氏が証言し、コチネル氏がジュジョヴァー氏を介して実行犯に殺人を依頼した旨述べた。アンドルシュコー氏は、警察との司法取引に応じたため、15年の懲役刑が確定している。

22日、裁判所は、携帯電話通信アプリThreemaのメッセージ記録を、法的証拠として取り扱う旨決定した。コチネル氏は、同アプリを利用して、政治家や裁判官と直接コンタクトを取り、様々な便宜を受けていた疑いがある。同氏のメッセージ記録は、次回以降の公判で証拠として提出される予定である。

◆次期首相候補に関する世論調査結果（22日付プラウダ紙）

世論調査機関AKOは、最も首相に相応しい人物についての世論調査を実施したところ、結果は以下のとおり。

- (1) ペレグリニ首相（Smer-SD副党首）：30.8%
- (2) キスカ前大統領（Za ľudí党首）：23.0%
- (3) コトレバルSNS党首：8.1%
- (4) コラールSmerodina党首：7.9%
- (5) マトヴィチOLaNO党首：6.5%
- (6) スリークSaS党首：5.8%
- (7) トルバンPS党首：4.2%
- (8) ドウルケルDobra volba党首：4.0%
- (9) ダンコ国会議長（SNS党首）：3.4%
- (10) ハラビンVlast党首：3.1%

◆政党支持率調査結果（27日）

世論調査機関Focusによる1月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。極右政党LSNSが引き続き2位となっている。2月29日に国会総選挙が実施される予定。

| 政党 | Focus | 2016年選挙 |
|----------------------------|-----------|---------|
| Smer-SD（方向・社会民主主義） | 18.0%(32) | 28.3% |
| LSNS（我々のスロバキア） | 12.8%(23) | 8.0% |
| Za ludi（人々のために） | 10.8%(19) | — |
| PS/Spolu（プログレッシブ・スロバキア／共に） | 9.8%(17) | — |
| OLaNO（普通の人々・独立した人達） | 9.0%(16) | 8.6% |
| Sme rodina（我々は家族） | 7.6%(14) | 6.6% |
| KDH（キリスト教民主運動） | 5.7%(10) | 4.9% |
| SaS（自由と連帯） | 5.5%(10) | 12.1% |
| SNS（スロバキア国民党） | 5.2%(9) | 8.6% |

◆裁判官の職務停止及び裁判官に対する家宅捜索（29日付ブラウダ紙及び30日付スメ紙）

司法理事会は、実業家コチネル氏の便宜を図った疑いのあるツヴィコヴァー裁判官の職務停止を決定した。同理事会は、現在育児休暇を取得しているマルニアコヴァー裁判官に対しても、懲戒手続きを行うことを検討している。2018年4月、両裁判官は、コチネル氏が民放TV局「マルキーザ」の有価証券を偽装した疑惑に関する裁判において、コチネル氏に有利となる判決を下し、その見返りとして賄賂を受け取った疑いがある。携帯電話通信アプリThreemaを介してコチネル氏と連絡を取り合っていたことを受け、昨年9月に辞任したヤンコウスカー前副法務相も、同裁判に関与していた。ヤンコウスカー氏は、副法務相辞任後に裁判官のポストに復帰したが、昨年10月以降裁判官としての職務を停止されている。

昨年以降、コチネル氏が複数の裁判官と直接あるいは間接的にコンタクトを取っていたことが、メディアによって報じられている。これを受け、ベルトティオヴァー最高裁判所裁判官を委員長とする特別な委員会が、コチネル氏のThreemaの会話記録の調査を行っている。

29日、警察は、コチネル氏から賄賂を受け取った疑いのあるヤンコウスカー裁判官（前副法務相）、ハイトヴァー裁判官（ヤンコウスカー前副法務相の妹）、ツヴィコヴァー裁判官及びスクレンカ元裁判官の計4名の家宅捜索を行った。警察は、「今回の家宅捜索で逮捕又は起訴された者はいない」とコメントしつつ、それ以外の詳細については言及しなかった。

外 政

◆チャプトヴァー大統領のイスラエル及びポーランド訪問（２３日，２７日）

２３日，チャプトヴァー大統領はイスラエルを訪問し，エルサレムのホロコースト博物館「ヤド・ヴァシェム」で行われた，アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所解放７５周年追悼式典に出席した。同式典は，リブリン・イスラエル大統領の主催によって行われ，マクロン仏大統領，シュタインマイヤー独大統領，プーチン露大統領，ペンス米副大統領，チャールズ英皇太子等４０か国の代表者が出席した。チャプトヴァー大統領は，「人種差別に基づく暴力は，いつも言葉から始まる。歴史は，差別的な発言が大量殺戮につながることを示している。互いに尊重し，一人一人の尊厳を擁護することは，普遍的な意味を有している」と述べた。

２７日，チャプトヴァー大統領は，ポーランドのオシフィエンチムで行われたアウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所解放７５周年追悼式典に出席した。同式典には，約６０か国の国家元首等が出席した。チャプトヴァー大統領は，「ホロコーストの犠牲者の中には，スロバキアの町や村から暴力的に連行された数万人の人々も含まれている。当時のスロバキアのファシズム政権が彼らを死に追いやった」と述べた。

社 会

◆民主主義に関する世論調査結果（１０日付スメ紙電子版）

世論調査機関Focusは，スロバキアの民主主義に関する世論調査について実施したところ，結果は以下のとおり。

「どのような手段でスロバキアの民主主義を変化させたいか？」との設問に対する回答者の割合（複数選択可。括弧内の数値は２０１７年１月のデータ）。

- （１）公正な人々による民主主義への参画：７６％（７１％）
- （２）警察，検察，司法機関等の独立性強化：７４％（６３％）
- （３）国民投票等の活用による直接民主制の強化：６５％（５８％）
- （４）地方分権の推進：５７％（５０％）
- （５）国家による経済への介入（企業の国営化等）：４６％（３９％）
- （６）強い政治指導者の登場及び同指導者の政治権力拡大：３５％（４０％）
- （７）ＥＵ離脱：２４％（３０％）
- （８）社会主義時代への回帰：２３％（２９％）
- （９）議会制度の廃止と独裁制の導入：１４％（１６％）

◆スロバキアにおける宿泊客数の増加（24日付スメ紙電子版）

欧州統計局の速報値によると、2019年のスロバキアにおける宿泊客数は1710万人であり、前年比で12.6%増加した。そのうち、スロバキア人の宿泊客は1110万人（前年比で15.1%増加）、外国人宿泊客は600万人（同8.4%増加）であった。

スロバキアの宿泊客数の増加率は、EU加盟国の中で最も高かった。他に宿泊客数の増加率が高かった国は、リトアニア（10.0%増）、オランダ（6.8%増）、英国（5.7%増）であった。

EUで宿泊客数が最も多いのは、スペイン（4億6900万人）、フランス（4億4600万人）、ドイツ（4億3600万人）、イタリア（4億3300万人）、英国（3億7500万人）であった。

経 済

◆2019年の自動車生産実績（13日付経済新聞）

スロバキア自動車産業協会（ZAP）等のデータによると、スロバキアにおける2019年の自動車生産実績及び自動車産業の当地経済に占める重要性は以下のとおり。

（1）2019年の自動車生産台数は約110万台。うちPSA（プジョー・シトロエン）が37万5000台、起亜自動車（KIA）が34万4000台。フォルクスワーゲン（VW）及びジャガー・ランド・ローバー（JLR）の生産台数は後日公表予定。スロバキアの人口1000人あたりの自動車生産台数は202台で、引き続き世界第1位となっている。2020年の自動車生産台数は115万台と予測されている。

（2）鉱工業生産に占める自動車及び同部品生産の割合は49.5%。うち完成自動車が19.8%、自動車部品が29.7%。

（3）スロバキアの全輸出に占める自動車産業の割合は46.6%。

（4）GDPに占める自動車産業の割合は13.9%。

（5）スロバキアの自動車産業は17万7000人を直接雇用、27万5000人を間接雇用。

◆2019年の物価上昇率（14日付TASR通信）

スロバキア統計局は、2019年の物価上昇率が前年比で2.7%であった旨発表した。投資銀行Wood & Companyのサドウスカー氏は、「2020年の物価上昇率は2～2.5%になると予測している。エネルギー価格が3%、食料品価格は2%以上それぞれ上昇する見通しである」と述べた。

ここ数か月の物価上昇の要因は、低い失業率、名目及び実質賃金の上昇、一

人あたり購買力の上昇である。他方で、経済成長の落ち込みにより、商品及びサービス価格の上昇率が若干の減速傾向にある。

◆2019年の平均賃金（15日付プラウダ紙）

2019年のスロバキアの平均実質賃金は1101ユーロ（月額）であり、2018年よりも約70ユーロ上昇した。2019年の平均賃金の上昇率は、2017年（前年比で6.6%上昇）に次いで、過去10年間で2番目に高かった。スロバキア人の50%が1009ユーロ以上、10%が653ユーロ以下の賃金を得ている。

地域別に見ると、ブラチスラバ県の平均賃金が1484ユーロで最も高く、次いでコシツェ県、トルナバ県の順に高い。ブラチスラバ県では17%の人が2000ユーロ以上稼いでいるが、プレショウ県で同額以上の給与を得ているのは3%に過ぎない。

業種別に見ると、管理職を除いて最も給与が高いのはIT技術者で3024ユーロであり、プログラマー、弁護士、税理士、ITセキュリティ専門家も給与が高い。給与が最も低いのは、掃除作業人（573ユーロ）や郵便局員（580ユーロ）で、調理補助員、ホテル清掃員、病院用務員も給与が低い。

◆外国人労働者数の増加（24日付経済新聞）

労働・社会問題・家族省の統計によると、2019年末時点で登録されている外国人労働者数は、7万8298名であり、前年同期比で9182名増加した。その内、約3万2000名がEU加盟国出身であり、約4万6000名が非EU加盟国出身である。

非EU外国人労働者の中では、セルビア人の数が1万3335名であり、前年同期比で若干減少した一方で、ウクライナ人の数は2万2932名となり、前年同期比で約2倍に増加した。（共産主義時代から繋がりのある）ベトナム人の数は1210名であった。

EU加盟国の中で最も多いのは、ルーマニア人、チェコ人、ハンガリー人、ポーランド人、ブルガリア人、イタリア人、クロアチア人であり、上記7か国の国籍はそれぞれ1000名を超えている。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

